

マネーストック

Q: マネーストックとは何ですか

A: マネーストックとは、従来マネーサプライと呼ばれていたもので、金融部門から経済全体に供給されている「通貨(マネー)」の総量のことです。具体的には、個人や一般法人(金融機関を除く)等が保有する通貨量の残高を日本銀行が集計しています。何を「通貨」と見なすかは国や時代によって異なります。日本のマネーストック統計には、現金通貨と預金通貨(普通預金・当座預金)の合計である「M1」、M1に定期性預金や譲渡性預金(CD)等を加えた「M2」「M3」、投資信託や国債などの多様な金融商品を含める「広義流動性」の四つの指標があります。

Q: 最近、統計の見直しが行われたそうですが、その理由と内容を教えてください

A: 今般、統計の見直しが行われ、今年の5月分から新しい統計に切り替わりました。その際、統計の名称についても、海外の例に倣ってマネーサプライからマネーストックへと変更されました。

最大の変更点は、M1の対象金融機関がゆうちょ銀行などを含むすべての預金取扱金融機関に拡張されたことです(新M1、図表)。2007年10月の郵政民営化によって、ゆうちょ銀行が銀行法に基づく「国内銀行」となり、他の銀行と区別する理由がなくなったことに対応したものです。新M2は、従来の「M2 + CD」にほぼ対応するもので、ゆうちょ銀行の定期性貯金等は含みません。なお、従来「M2 + CD」という形で表記されていましたが、マネーストック統計ではCD

も含めて単に「M2」と呼ばれます。新M3は、この新M2にゆうちょ銀行の定期性貯金等を加えたもので、従来の「M3 + CD」にほぼ対応します。

広義流動性については、銀行発行普通社債が含まれたり、投資信託に公募投信だけでなく私募投信を含めたりするなどの変更がありました。多様な金融商品が登場したことで、「広義流動性」に含めるべき通貨の範囲が変化しているためです。

Q: マネーストックは実体経済や金融政策とどのような関係にありますか

A: マネーストックは従来、物価や景気と密接な関係にありましたが、1990年代以降、その関係が不安定になっています。例えば、90年代末に金融システム不安が強まった時期には、将来の不意の支出に対応する通貨の予備的需要が高まったことなどから、景気が悪化する中でマネ

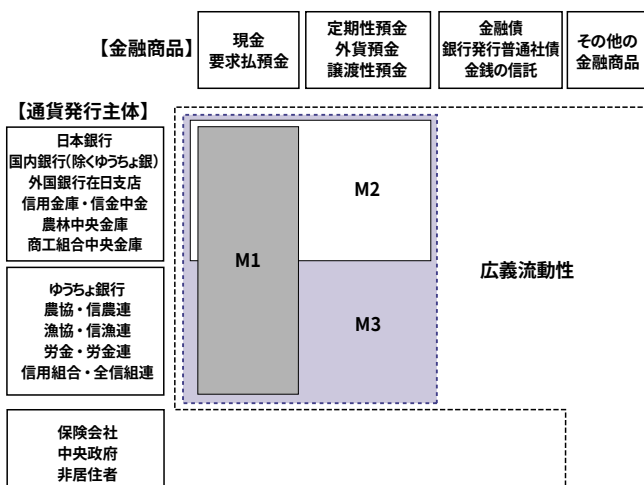
ーの伸びが高まるという現象が起きました。最近では金融自由化や金融商品の多様化が進み、マネーの動きを捉えることが一層難しくなっています。

日銀は、マネーストックを金融調節の操作対象とはしていませんが、金融情勢の判断材料の一つと位置づけています。将来的には再びマネーストックと経済活動との関係が強まり、経済指標としての重要性が増すことも考えられます。

今後について、日銀は従来重視していたM2 + CDとの継続性から新M2に着目していくようです。今回の見直しは基本的に技術的なものであり、金融情勢の判断材料の一つという日銀の金融政策上の位置づけに変更はありませんが、より金融の実態に即した統計になったと言えるでしょう。□

みずほ総合研究所 経済調査部
市川雄介
yusuke.ichikawa@mizuho-ri.co.jp

●見直し後の通貨指標の範囲



(注) その他の金融商品=金融機関発行 CP、投資信託(公募・私募)、国債・FB、外債。
(資料) 日本銀行「『マネーサプライ統計』の見直しに関する最終方針」